

指導教員によるコメント

河内山さんは、博士課程論文で、18世紀初頭スコットランドの土地所有階層を扱い、17～18世紀における土地所有階層の変容を手がかりにして、近世スコットランド史を見直そうと考えています。現在のところ、河内山さんが想定しているスコットランド土地所有階層の変容とは、大きなレベルでは経済的基盤の変化、それへの対応に伴う社会ネットワーク形成の変化といった問題ですが、イングランドのジェントリ階層との比較を視野に入れることで、より明確に変容を分析することが可能になると考えています。今回の海外調査研究による支援を得て、河内山さんは、比較的新興の土地所有階層であったペニクックのクラーク家文書に着目しました。クラーク家のなかでは法曹出身で政治家でもあったサー・ジョン・クラークが有名であり、イングランドとの関係やスコットランド貴族との関係からも興味深い人物といえます。しかし河内山さんは、あえてその弟でいわば部屋住み身分からの自立を画して模索したジェイムズ・クラークを取り上げました。イングランドのジェントリ階層においては、その構成員・担い手をどう考えるか、あるいは社会的流動性とのかねあいなどが議論の対象となっていますが、同じような問題意識から検討する上で、ジェイムズ・クラークが格好の視点を提供してくれると考えたからようです。ただクラーク家文書のなかではジェイムズ関連史料は少なく限界があり、今回の調査研究によって、それを補完する史料群を発見できたこと、また日本では手に入らないプロソポグラフィカルな分析に必須の文献を得たことは喜ばしく、博士課程論文の核心部分の研究がこれにより可能になるものと大いに期待されます。

新井 由紀夫（お茶の水女子大学大学院人間文化創成科学研究科 教授）